

すぎなみの川と生き物

- 第九次河川生物調査報告書概要版 -

杉並区では、区内の自然環境を定期的に調査し記録に留めるとともに、これからの施策や環境学習の基礎資料として役立てることを目的に、河川生物調査や自然環境調査を継続的にを行っています。

河川生物調査は昭和 57 年より 8 回にわたり実施し、その結果を公表してきました。

今回の調査は第九次調査で、底生動物、付着藻類、魚類、水草の定点調査と、善福寺川における植物相の調査を行いました。本調査結果がより良好な水辺環境に向けた取組や環境学習等を推進する基礎資料として、大いに活用されればと考えております。

本概要版では、杉並区の河川環境の特徴に触れながら、調査結果の概要と確認された代表的な種について解説しています。



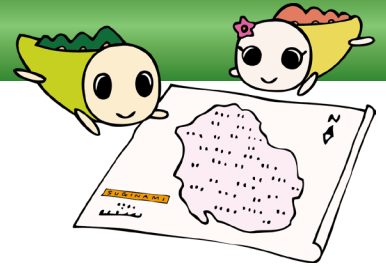
カワヨシノボリ
(神田川鎌倉橋付近で確認)

杉並区の川には
どんな生き物がいるのかな？



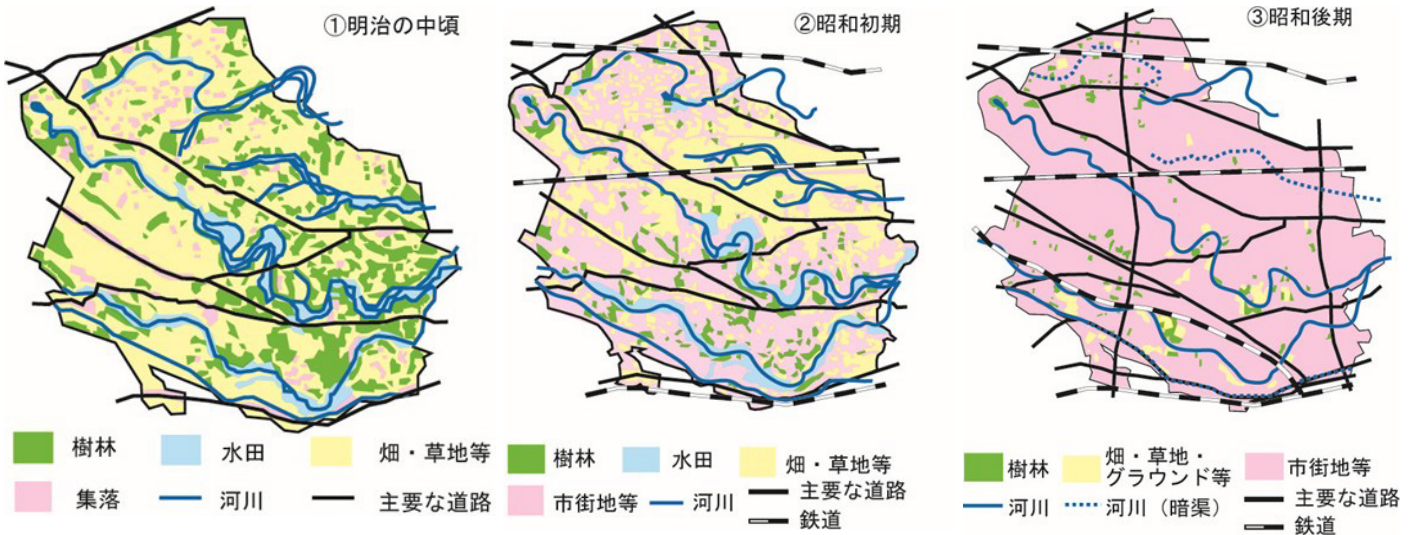
杉並区
令和 8 年 3 月

河川環境の変化



1. 土地利用の移り変わり

昭和初期までは、区内の川の周りには水田や畑が広がっていました。しかし、昭和30年代後半から、経済成長と人口増加に伴い、農地や樹林の多くが市街地に変わりました。



2. 河川改修について

市街地化が進み、地面が土からアスファルトやコンクリートに変わると、雨水は地中に染み込まず、直接川へと流れるため、大雨が降ると川は急激に増水します。洪水を防ぐため、川の深さや幅を広げる工事、川の水を分けて流す水路や水量を調節するための池の建設などの河川改修が行われています。

和田堀公園調節池 ▶
増水時に川から水を引き込み、一時的に貯めておきます。



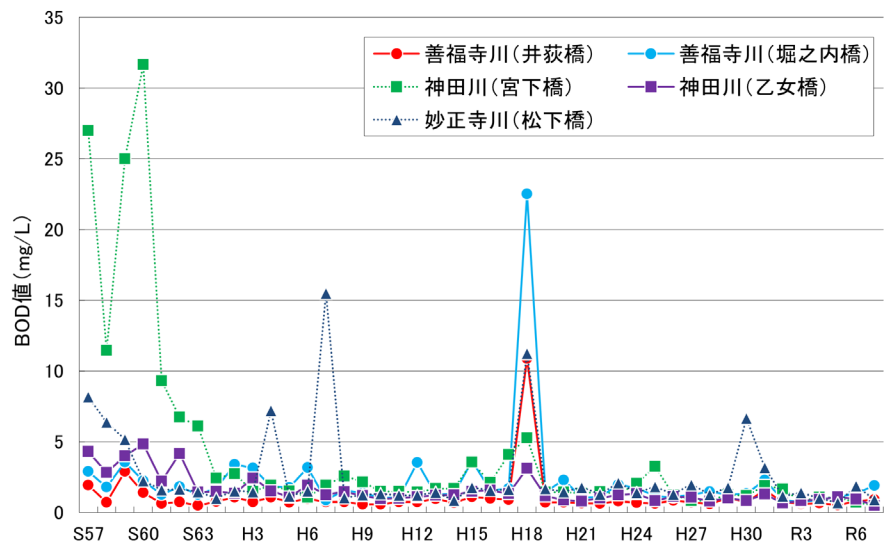
◀ 善福寺川取水施設
増水時に、施設下の取水口から地下の放水路に水を流します。

3. 水質調査について

杉並区では、3つの川の計5地点で年4回の水質調査を行っています。

BOD*¹ (生物化学的酸素要求量) という指標でみると、川の水質は下水道の普及とともに改善され、普段は5mg/L以下の良好な水質を保っています。BOD値が高いときがあるのは、大雨で下水が川に流れ込んだためと考えられます。

BOD値が低いほど水がきれいで、5mg/L以下から魚がすめるようになるといわれています。



川の水質 (BOD 値) の経年変化

すぎなみの川

杉並区には、妙正寺川・善福寺川・神田川の3つの自然河川が流れており、いずれの川も、地下水が染み出したり湧き出したりしてできた池が水源となっています。このほか、人工水路の玉川上水、あんきよ暗渠（地面の下を流れる水路）となっている井草川・桃園川もあります。

川のほとんどがコンクリートの壁に囲まれた都市河川で、川の中の生き物は決して多くはありませんが、貴重な生き物も確認されています。

妙正寺川

妙正寺池を水源に杉並区の北部を流れ、新宿区で神田川（高田馬場分水路）に合流する長さ9.7kmの川です。流量が少なく水深が浅いため、川幅が狭くなっています。

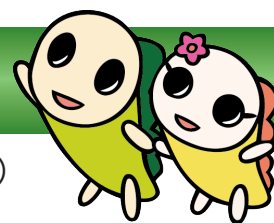
善福寺川

善福寺池を水源に杉並区のほぼ中央を流れ、中野区との境で神田川に合流する長さ10.5kmの川です。善福寺公園や和田堀公園など緑の多い公園が川沿いに複数あります。

神田川

三鷹市の井の頭池を水源に杉並区の南部を流れ、善福寺川、妙正寺川と合流した後、都心の流れ、両国橋付近で隅田川に合流する長さ24.6kmの川です。

調査内容



調査地点：妙正寺川、善福寺川、神田川の15地点（底生動物と付着藻類は10地点）

調査時期：令和7年8-9月、10月（2回）

調査項目：底生動物、付着藻類、魚類、水草（沈水植物）

（調査地点の環境条件として、水温・pH・透視度・臭気なども調べました。）

このほか、善福寺川では、9月29日～10月29日に川全体で橋間ごとに植物の調査も行いました。



- : 底生動物、付着藻類、魚類、水草(沈水植物)を調査
- : 魚類、水草(沈水植物)のみを調査

※東京都から特別採捕許可（川の中の生き物を捕まえる許可）をとって調査を実施しています。

底生動物 ていせいどうぶつ

川などの水中で、主に底のほうで生活している小さな虫などを底生動物といいます。川の中にもたくさんの虫がすんでいて、魚などのエサになっています。カゲロウ、トンボ（ヤゴ）、ゲンゴロウなどの水生昆虫のほか、貝類、ミミズ、エビ、カニなどが含まれます。

調査結果

妙正寺川（1 地点）で 53 種、善福寺川（6 地点）で 97 種、神田川（3 地点）で 81 種、全体では 115 種の底生動物が確認されました。前回の第八次調査の全体種数 90 種より増加しました。

シロタニガワカゲロウなどのきれいな水にすむ種や貴重な種がいる一方、外来種の数や種類、確認される地点が過去の調査より増加傾向にあります。確認された外来種はアメリカザリガニやハブタエモノアラガイなど大小さまざまで、計 10 種が確認されました。

きれいな水にすむ種

カゲロウ目ヒラタカゲロウ科

シロタニガワカゲロウ

1/2/3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



流れの穏やかな河岸の石の下に生息するカゲロウのなかまです。きれいな水の指標生物になっています。幼虫は水中で藻類を食べて生活し、5～6 月ごろに羽化して成虫になります。成虫になると何も食べずに繁殖のために水辺を飛び回り、その生涯を終えます。

重要種

エビ目テナガエビ科

テナガエビ

1/2/3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



川にすむエビのなかまで、成体のオスは 2 番目の脚が非常に長くなります。

緩やかな流れに水草が育つ良好な川の指標です。

東京都 RDB*2: 留意種

ヘビトンボ目センブリ科

ネグロセンブリ

1/2/3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



肉食性で他の水生昆虫を捕まえて食べます。3 月頃に水辺の湿った土の中でサナギになり、20 日ほどで羽化して成虫になります。そのため、コンクリート護岸では生息できず、数を減らしています。

東京都 RDB*2: 絶滅危惧Ⅱ類

外来種

エビ目アメリカザリガニ科

アメリカザリガニ

1/2/3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



全国的にも有名な外来種で、日本には 1927 年に神奈川県に持ち込まれたのが最初とされています。2023 年に条件付特定外来生物*3 に指定されました。雑食性で貴重な水生昆虫を食べたり、ハサミで水草を切ったりするので、水辺の生態系に大きな悪影響を与えています。

汎有肺目モノアラガイ科

ハブタエモノアラガイ

1/2/3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



成長しても大きさ 1cm ほどの北米原産の小さな巻貝です。水面付近の植物の葉やコンクリートに付着して生活しています。

観賞用に輸入された水草などにくっついてきたものが広がったと言われてはいますが、具体的な経緯は不明です。

↑数字は第一次～第九次調査のうち確認された調査を黄色で示しています。アルファベットは、妙正寺川 M、善福寺川 Z、神田川 K のうち第九次調査で確認された川を黄色で示しています。

付着藻類 ふちやくそうい

川底などの水中の石やコンクリート、水草などの表面にくっついて生活している小さな藻（植物のなかま）のことで、川底がヌルヌルして滑ることがあるのは、付着藻類が生えているからです。藍藻、紅藻、褐藻、珪藻、緑藻などの種類があり、魚や虫のエサにもなっています。

調査結果

妙正寺川（1 地点）で 28 種、善福寺川（6 地点）で 99 種、神田川（3 地点）で 89 種、全体では 112 種の付着藻類が確認されました。前回の第八次調査の全体種数 154 種より種数が少なくなりました。数（細胞数）としては珪藻類が最も多く、多くの場所では過半数が珪藻類でしたが、善福寺川の上池と下池の間では、藍藻類が 9 割以上を占めていました。

重要種

紅藻類

1/2/3/4/5/6/7/8/9

オオイシソウ

M/Z/K



紅藻類ですが青緑色で糸のような形をしており、川の中の石や水草などに生育します。発見者の大石芳三さんの名前が由来になっています。生育地が小規模な場合が多く、都市化の影響を受けやすいです。

今回の調査では 10 地点中 8 地点で生育が確認されました。

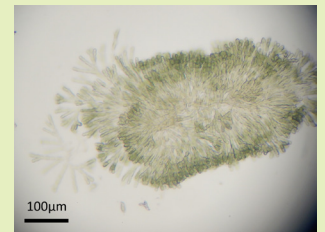
東京都 RDB*2: 情報不足

紅藻類

1/2/3/4/5/6/7/8/9

オキチモズク

M/Z/K



湧水由来の汚れない水に生育するモズクのような見た目の藻類です。最初に発見された愛媛県松山市のおきちずみ吉泉が名前の由来になっています。西日本のみで生育が知られていましたが、最近になって都内でも確認されました。

今回の調査で初めて寺分橋（善福寺川）付近で確認されました。

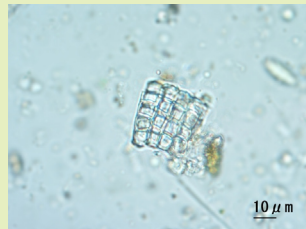
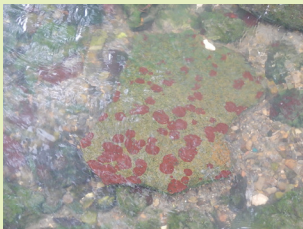
東京都 RDB*2: 情報不足

紅藻類

1/2/3/4/5/6/7/8/9

タンスイベニマダラ

M/Z/K



河床の石やコンクリート上にへばりつくように小さな斑点状の赤い群体を形成します。湧水やきれいな水の河川・水路で見られます。生育するには^か濁れることのない清流の存在が不可欠です。

今回の調査では 10 地点中 5 地点で生育が確認されました。

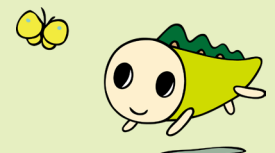
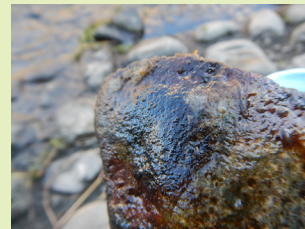
東京都 RDB*2: 準絶滅危惧

褐藻類

1/2/3/4/5/6/7/8/9

イズミイシノカワ

M/Z/K



河床の石やコンクリート上にへばりつくように小さな斑点状の褐色の群体を形成します。しばしばタンスイベニマダラと一緒に生育していることがあります。都内での分布状況はあまりわかりません。

今回の調査では 10 地点中 3 地点で生育が確認されました。

東京都 RDB*2: 情報不足

魚類

調査結果

妙正寺川（1地点）で1種、善福寺川（9点）で16種、神田川（5地点）で11種、全体では16種の魚類が確認されました。地点別で比較すると、種数では鎌倉橋（神田川）の9種、捕獲した個体数では方南第一橋（神田川）の225個体が最も多い結果となりました。

前回の第八次調査は全体で17種でした。ニゴイ、ナマズ、タウナギが第九次調査で確認されなかった一方で、ウキゴリ、ツチフキは第八次調査では確認されませんでした。第九次調査で確認された種です。

重要種

スズキ目ハゼ科

ウキゴリ

1/2/3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



川の中流域～汽水域の水の流れが緩やかな場所に生息します。水質汚染や河川の開発などによって個体数が減少しています。

今回の調査では、善福寺公園の上池と下池の間で確認されました。

東京都 RDB*2: 準絶滅危惧

ダツ目メダカ科

ミナミメダカ

1/2/3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



かつては水田や水路に多く見られた身近な種でありましたが、市街地化に伴い、都内では急激に数が減っています。

今回の調査では、善福寺川と神田川でわずかながら生息が確認されました。

東京都 RDB*2: 絶滅危惧 IA 類

国外外来種

スズキ目サンフィッシュ科

ブルーギル

1/2/3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



全国各地の水辺で確認されている北米原産の有名な外来種で、特定外来生物*3に指定されています。えらぶた (gill) の青い模様が名前の由来です。

今回の調査では、善福寺公園の上池と下池の間で確認されました。

国内外来種

コイ目コイ科

ツチフキ

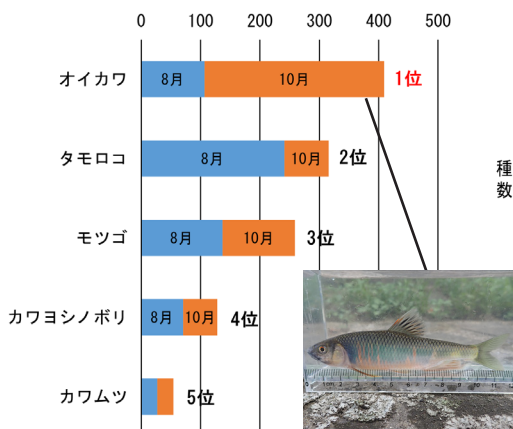
1/2/3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



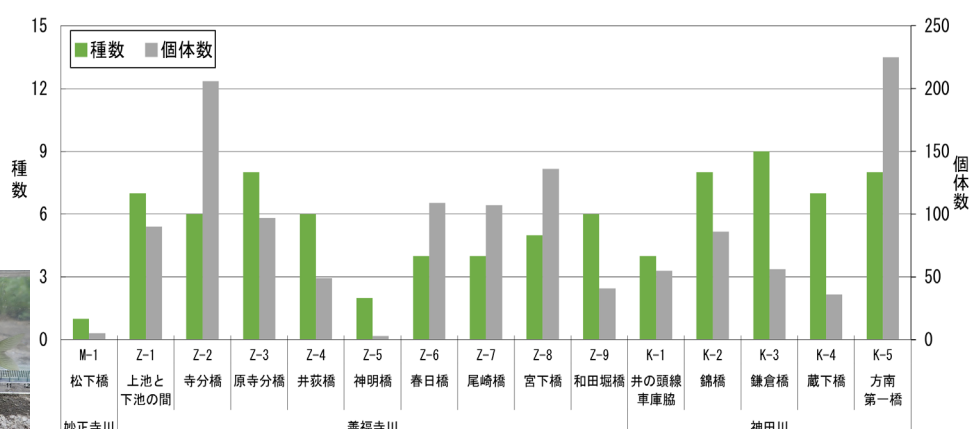
水深の浅い砂泥質の場所を好んで生息する底生魚です。口が下向きについて、水底を掘るようにしてエサとなる底生動物や付着藻類を食べます。

本来の分布域は静岡県から西で、アユの放流に交じって関東に広がったとされています。

今回の調査で初めて確認されました。



魚類の種別個体数（上位5種）



魚類の調査地点別種数および個体数

水草

調査結果

善福寺川（9地点）で5種、神田川（5地点）で3種、全体では6種が確認され、妙正寺川（1地点）では水草が確認されませんでした。前回の第八次調査の全体種数4種からエビモとマツモの2種が増えました。どちらも貴重な水草で、善福寺川で少数ながら生育しているのを確認しました。

貴重な水草であるナガエミクリが多く、の地点で生育している一方で、外来種のおオカナダモやオオフサモは数を増やし、分布を広げています。

重要種

イネ目ガマ科
ナガエミクリ

3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



湧水由来のきれいな水辺に生育する抽水植物^{ちゅうすい}です。水の流に強いため、完全に水没しても生育が可能です。栗のような実をつけます（写真右下）。

全国的に限られた場所にしか生育しない種ですが、善福寺川と神田川の広範囲で多くの株が確認されました。

東京都 RDB*2: 準絶滅危惧

外来種

オモダカ目トチカガミ科

おオカナダモ

3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K



ユキノシタ目アリノトウグサ科

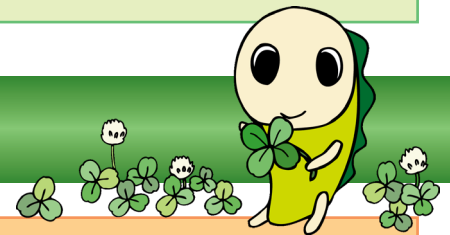
おオフサモ

3/4/5/6/7/8/9
M/Z/K

特定外来生物*3



善福寺川の植物相



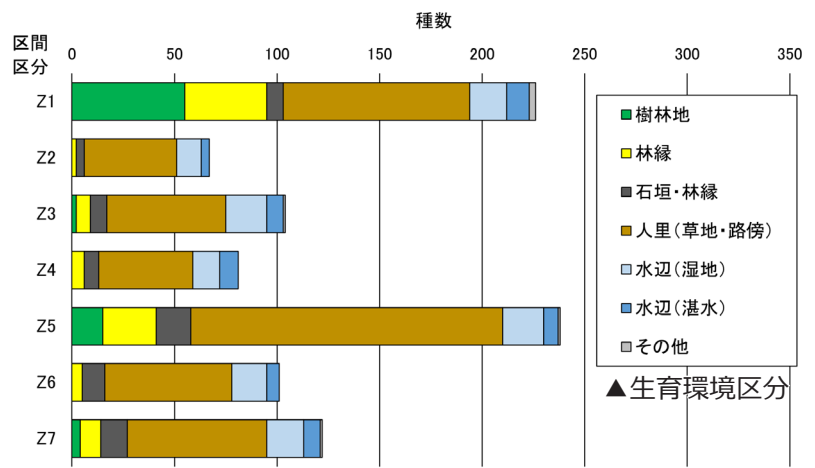
調査結果

水源の善福寺池から神田川合流部まで善福寺川全体で 386 種の植物が確認されました。このうち、177 種が人が植えた種（植栽）やそこから野生化した種（帰化・逸出^{きか いっしゅつ}）であり、住宅地の近くを流れる都市河川の特徴を反映した結果となりました。

区間区分ごとに分けてみると、善福寺公園がある Z1、距離も長く善福寺川緑地や和田堀公園がある Z5 の 2 区間で特に多くの種が確認されました。また、Z1 の善福寺公園内では、樹林地に生育する種が、他の区間に比べて多く確認されました。



善福寺川の区間区分



区間区分別の植物の出現種数

河川の水質と環境

今回の調査で、河川周辺の市街地化により湧水が減少し、昭和後期まで水質汚濁が進んだものの、近年は良好な水質が保全されていることが確認されました。



▲善福寺川春日橋からの景色

杉並区の河川は大雨の際の近隣住民の安全確保のため、多くでコンクリート護岸等の河川構造となっていますが、たまった土砂等に植物が根付いている場所や構造物等によって水の流れが変化している場所、緑の多い公園と接している場所などには、豊かな生物相がみられます。

河川はまさに、杉並区の自然環境の中核をなす場所であり、水辺の健全で豊かな生態系の質を向上させる意味で、生物の多用性を高めることがこれからの大きな課題であると考えられます。

今後も、河川の持つ役割、機能への理解を深め、豊かな自然景観や良好な河川環境を守ることが大切です。

用語解説

*1 BOD: Biochemical Oxygen Demand (生物化学的酸素要求量) の略。川の汚れを表す目安として使われています。BODの値が高い川では、汚れを分解するために多くの酸素が使われ、水中の酸素は少なくなります。その結果、魚などが生きていくための酸素が足りず、死んでしまったり、水が腐って悪臭が発生してしまったりすることもあります。

*2 東京都 RDB: 都内で絶滅する危険性が高い生物の生態や現状などについて解説した本。RDBはレッドデータブック (Red Data Book) の略。本調査では最新版の「東京都レッドデータブック (本土部) 2023」を基準に重要種を選定しています。

*3 特定外来生物: 日本にもともといなかった海外からきた生物 (国外外来種) のうち、もともといた生物 (在来種) や生態系、人間、農林水産業への被害が問題になるとして法律で指定された生物のことです。特定外来生物は、飼育・栽培などが禁止されており、動物の卵や植物の種を含め、生きたまま移動させることも法律違反になります。

【東京都 RDB のカテゴリー】

留意種 (絶滅のおそれはないものの、留意が必要な種)

EX (絶滅)

CR+EN (絶滅危惧 I 類)

DD (情報不足)

EW (野生絶滅)

CR (絶滅危惧 I A 類)

EN (絶滅危惧 I B 類)

VU (絶滅危惧 II 類)

NT (準絶滅危惧)

高い ← 絶滅する可能性 → 低い

すぎなみの川と生き物 (第九次河川生物調査報告書概要版)

令和 7 年度版 令和 8 年 3 月発行

編集・発行: 杉並区環境部環境課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号 TEL (03) 3312-2111 (代)

☆杉並区のホームページでご覧になれます。 <https://www.city.suginami.tokyo.jp>

構成:  株式会社 総合環境計画

登録印刷物番号

07-0098



この冊子は「杉並区 河川の生物 - 第九次河川生物調査報告書 -」をもとに作成しています。詳しい調査結果などについては、杉並区のホームページから報告書をご覧ください。